

野菜の害虫と防除の基本

【加害タイプ別のおもな害虫】

◆ ^{きゅうじゅうせいがいちゅう}吸汁性害虫 ・ ・ (アブラムシ) : ^{しんめ}新芽や葉に寄生する体長1～2mmの小さな害虫。
群れをつくって作物の栄養を奪う。

◆ ^{しょくがいせいがいちゅう}食害性害虫 ・ ・ (ヨトウムシ) : ヨトウガの幼虫で、葉を食い荒らす代表的な害虫。

^{はうら}葉裏に数百個の卵を固めて産み、^{ろうれいようちゅう}老齢幼虫になると
日中は土にもぐり、夜に出てきて葉を食べる。
農薬にも強く、主に畑の野菜を食べる。

(ウリハムシ) : キュウリ、スイカなどウリ類の害虫。葉の表面に円を
描くように食害し、日が経つと円の内部が枯れ落ちます。

【害虫防除は、総合的な防除へ】

害虫防除は、^{ぼうじょ}化学農薬だけに頼らず、^{ぼうじょ}環境保全型の総合的な防除をすすめることが課題。

◆ (生物的) ^{せいぶつてき}防除 ・ ・ ^{どちやくてんてき}土着天敵の利用をすすめて、害虫の^{せいいくみつど}生育密度を減らすこと。

アブラムシの天敵→ナナホシテントウムシ、ヒラタアブ

ヨトウムシの天敵→クモ、ゴミムシ、^{きせいばち}寄生蜂

◆ (物理的) ^{ぶつりてき}防除 ・ ・ モンシロチョウの飛来と産卵を防ぐ防虫ネット

シルバーマルチの利用も有効的。

◆ (耕種的) ^{こうしゆてき}防除 ・ ・ ^{りんさく}輪作、^{こんしよく}混植、^{どじょうかいりょう}土壌改良、^{びょうがいていこうせいひんしゆ}病害抵抗性品種の利用など、耕作の手法

を変えることで^{ぼうじょ}防除する。マリーゴールドを^{こんさいるい}根菜類や^{かさいるい}果菜類に^{こんしよく}混植
して害虫被害をおさえる方法もとられている。